

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



64



あらい犬猫病院長
(富山市)
荒井靖子

富山はまだ雪が残っている状態ですが、花粉の飛散が確認されていますね。

皆さんは犬猫にも花粉症があることをご存じでしょうか。花粉症はアレルギー性の病気の一つで、アレルギーの原因となる物質(アレルゲン)が花粉であるものことです。そのため、アレルゲンとなる花粉が飛散している期間に発症します。犬猫の花粉症は人の花粉症の症状とは少し違いますので、ちょっと気付きにくいかもしれません。

犬猫の花粉症



多い症状は皮膚炎

かゆみよりも、皮膚のかゆみや発疹のような皮膚炎の症状が多く見られます。皮膚が赤くなったり腫れたりしてかゆがり、かきむしることで悪化します。皮膚炎は顔(目や口の周り)、耳、首、胸からお

なかにかけて、脇や股や足先によく見られます。診断名はアトピー性皮膚炎、外耳炎などになることが多いです。猫の花粉症の症状は、人の花粉症の症状と似ていて、鼻水やくし

やみ、時にはぜんそくのようなせきをすることもあります。またかゆみのため引っかいて脱毛したり、皮膚炎が起きたりすることもあります。皮膚炎の起こる場所は犬の場合と同様です。診断名はアトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、気管支炎となることが多いです。これら犬猫の花粉症の原因となる主なアレルゲンはスギ(2〜4

▲花粉症を発症したトイプードル。目の周りが赤く、かゆみを伴っている

月)、ヒノキ(3〜5月)、シラカバ・ハンノキ(4〜6月)、イネ科(5〜10月)、ブタクサ(8〜11月)などです。

花粉症の対策としては①散歩時には花粉よけの洋服を着せる②花粉の飛散情報を参考に飛散の多い日・時間帯(午後2時前後と午後6〜7時)を避ける③帰宅時には体に付いた花粉を拭き取り、室内に持ち込まない④室内では空気清浄機を使い、掃除をこまめにする⑤花粉症のある犬猫は交差反応(※1)や口腔アレルギー(※2)を避けるため、野菜や果物は与えないようにするなどの配慮をしましょう。

※1 交差反応 異なるアレルゲンだが、同じ形をした部位があるために体内の抗体が反応してしまふ

※2 口腔アレルギー 特定の野菜や果物を食べると口腔粘膜などに過敏症が生じる